

2021（令和3）年度 学校マネジメントシート
三重県立上野高等学校（全日制）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		1 生徒が学びがいを実感する学校 2 保護者・地域が頼りがいを実感する学校 3 教職員が働きがいを実感する学校
(2)	育みたい 児童生徒像	1 挨拶を大切にする生徒 2 気づきを大切にする生徒 3 命を大切にする生徒
	ありたい 教職員像	1 自由闊達な職場風土の中で協働と研修を通して職能成長を図る教職員 2 生徒の成長に使命と情熱を感じる真の教育専門職を目指す教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		○生徒：学力の向上と進路希望の実現、勉学と部活動の両立 ○保護者：国公立大学への進学を中心とする進路希望の実現、充実した学校生活 ○卒業生・地域住民：地域の伝統的な進学校・中心校としての役割、文武両道にわたる活躍と実績 ○大学：学力と意欲の高い生徒の育成	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
		○PTA：進路希望実現、健全育成、学校情報の発信・提供 ○地域住民：情報発信と地域貢献 ○小中学校：地域の子どもたちを共に育てるとの観点に立った連携・交流 ○地域の関係機関：地域人材の輩出	○PTA：教育活動・教育環境充実のための理解・協力 ○地域住民：教育活動への理解・協力 ○小中学校：指導上必要な情報提供等 ○地域の関係機関：キャリア教育充実のための協働態勢
(3) 前年度の学校関係者評価等		<p style="text-align: center;">難関国公立・難関私立大学進学に特化した理数科の教育活動を一層充実させ、普通科との相乗効果により、より高い進路目標の実現に向けて切磋琢磨する人材の育成とカリキュラムの実現を図る。</p> <p style="text-align: center;">中学生のキャリアビジョンとの接続性を検証し、高校でのキャリア教育の成果を積極的に発信して国際舞台で活躍する人材の育成で引き続き地域貢献を果たす。</p> <p style="text-align: center;">地域の発展と地域課題に科学的にアプローチするSSHの教育プログラム開発に取り組んで、先導的な課題研究の実践に取り組む。</p>	
(4) 現状と課題	教育活動	○文武両道の伝統があり、生徒の多くが勉強と部活動の両立を図りながら、一丸となって学校行事に取り組むなど充実した学校生活を送っている。熱心できめ細やかな学習指導と進路指導の結果、難関国公立大学をはじめ、生徒・保護者の高い国公立志望に答えており、芸術系大学進学など幅広い進路希望の実現を果たしている。 ○人権尊重の態度を身に付けた心豊かな人間形成を目指し、気づきつながらあう活動は評価されており、今後も、いじめや差別を見抜き解決に向けて行動できる力の育成を図りながら、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の取組と合わせて、想像力・協調性を伸ばし、新たな課題の解決に積極的に取り組む生徒の育成を図る。	
	学校運営等	○本校の教育活動が、生徒自身にとって成長と学力の伸長をより実感できるものとなり、生徒が生き生きと学校生活を送る姿が、中学生や地域に広く伝わるように「開かれた学校づくり」を推進する。 ○時間外労働時間は前年度より大きく減少したものの、「三重県立学校における教育職員の在職時間の上限等に関する規則」に則り、時間外労働が1カ月45時間以内、1年360時間以内を遵守できるよう、学校全体で業務時間の削減など、環境整備を行う。	

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>1 目指す学校像「生徒が学びがいを実感する学校」を実現するための重点目標</p> <p>「全教職員による共通理解の下、生徒の『自己指導能力』（その時、その場で、何をすべきで、何をすべきでないかを自ら考え、判断し、行動する能力）を向上させる共通実践を継続することにより、生徒一人ひとりが自律的な学習習慣と生活態度を確立して進路希望を実現し、さまざまな教育活動に主体的・協働的な態度で取り組み、他者と共生する力を身に付けている。」という状態を重点目標とする。</p>
学校運営等	<p>2 目指す学校像「保護者・地域が頼りがいを実感する学校」を実現するための重点目標</p> <p>「探究活動に力を入れた教育活動の推進、学校情報の積極的な提供・発信、学校関係者評価委員会・人権教育推進協議会の活性化、適切迅速な対応等により、保護者・地域の満足と信頼を安定的に確保しており、その結果、本校への入学を希望する中学生とその保護者が増加する傾向にある。」という状態を重点目標とする。</p> <p>3 目指す学校像「教職員が働きがいを実感する学校」を実現するための重点目標</p> <p>「活気のある明るい組織風土の中で教育活動・学校運営を継続的に改善するための仕組みや教職員間・校内組織間のチームワークが適切に機能するとともに、過重労働緩和・総勤務時間縮減に関する取組が適切に講じられており、大多数の教職員が本校で勤務することに満足している。」という状態を重点目標とする。</p>

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
1 生徒が学びがいを実感する学校	<p>○全校体制で授業研究に取り組み、学習指導に関する指導力の向上を図る。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科横断的グループによる研究授業・授業評価の実施 ・より深い学びを主体的に行えるように、すべての授業で ICT の活用を進める。 ・生徒による授業評価年 2 回実施 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の授業満足度（「とても満足」と「満足」の計、以下同じ）90%以上 ・共同学習や個別学習で ICT を活用した教員割合 80% <p>○生徒が自己の進路希望を実現できるようキャリア教育の充実を図る。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSH の事業である「上高みらい探究プログラム」と連携し、「進学型キャリア教育」や「進学型インターンシップ」を系統的に実施する <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な学習・探究の時間」の授業満足度 80%以上 ・国公立大学合格者数、第三学年生徒の 25%以上 	<p>【活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科横断的グループによる研究授業・授業評価を年 2 回実施し、全体での共有した。 ・第 2 回目の研究授業・授業評価は教科ごとに ICT の活用をテーマに実施し、その後全体協議の場で活用方法の共有を行った。 ・生徒による授業評価を 7 月と 12 月に実施。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の授業満足度は、1 学年 91.4%、2 学年 91.1%、3 学年 93.7%と高い目標を達成した。 ・ICT を活用したと答えた教員の割合は 45%で、活用の度合いに個人差があり、課題を感じている様子がある。 <p>【活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学型インターンシップ <ul style="list-style-type: none"> * 一日看護体験（県教委、保健所主催） 中止 * 一日医師体験（県教委主催） 中止 * 「みえ地域医療オンラインセミナー」実施 二年生 3 名、三年生 3 名参加 * 伊賀市 IGABITO 育成事業 3 期目に指定され、SSH 事業と合わせ 3 月 11 日みらいプロジェクト発表会を開催した。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みらい探究 3 年目総合満足度（満足+やや満足） 1 年生みらい探究 F 81.3% 同 R 90% 2 年生みらい探究 F 81.2% 同 R 81% ・国公立大学 合格者 49 名 	

	<p>○スーパーサイエンスハイスクール (SSH) の取組を推進する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究的な内容を含んだ授業を各科目の70%以上で実施 ・高大連携先の新規開拓と探究活動サポーターリストの作成 ・「みらい探究R」の授業運営方法の確立と体系的な指導體制の構築 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の各活動満足度 90%以上 	<p>【活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究的な授業の実施科目の割合 100% ・本校卒業生を TA として招聘する取組を進め、津、桑名高等他の SSH 指定校との連携を進めた。 ・電子顕微鏡による資料解析実験をオンランで行うなど、三重大学生物資源学部と新しい手法の開発で連携し成果を上げた。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「みらい探究」による生徒のコンピテンシーの向上を、検査「AiGROW」の結果で定量化し手ごたえを掴む一方で、カリキュラム改善を行い、SSHの3年間のコアカリキュラムの構築を進めた。 <p>【生徒満足度12月アンケート】</p> <table border="1" data-bbox="847 730 1391 857"> <thead> <tr> <th></th> <th>1年生</th> <th>2年生</th> <th>3年生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理数科</td> <td>97%</td> <td>95%</td> <td>86%</td> </tr> <tr> <td>普通科</td> <td>88%</td> <td>90%</td> <td>95%</td> </tr> </tbody> </table>		1年生	2年生	3年生	理数科	97%	95%	86%	普通科	88%	90%	95%	
	1年生	2年生	3年生												
理数科	97%	95%	86%												
普通科	88%	90%	95%												

改善課題

コロナ禍の中、校外での活動に大きな制限を受けたが、オンラインによる活動に積極的に取り組み、遠隔地とつないで実験するなど新しい可能性を切り拓く成果を得ることができた。ICTの活用が大きく進む一方、学力の定着と向上に効果的な活用方法の共有と、資料作りのノウハウの共有およびスキルの向上が課題である。

休校により大幅な行事の精選と授業日程の見直しに迫られたが、限られた時間で集中して学習と学校生活を送ることの意義を再確認する結果となり、今後に活かしていく必要がある。

みらい探究Rで確認できたコンピテンシーの向上を教育活動全般に波及させるとともに、高学年で満足度が向上するようカリキュラムの改善に取り組むことが課題である。

(2) 学校運営等

<p>2 保護者地域が頼りがいを実感する学校</p>	<p>○人権教育を積極的に推進する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権学習LHRを各学年年1回以上公開 ・教職員の全体研修、小グループ研修をそれぞれ年2回以上実施 ・全教職員が年3回以上実施するフィールドワークに1回以上参加 ・生徒が主体的に取り組む小学6年生全員との人権交流会を年2校以上実施 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権問題の解決に向け主体的に考え、実践できる生徒の増加 	<p>【活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学年は11/10、2学年は11/17、3学年は6/30に実施し事後検討会を実施 ・全体研修は5/14と10/28に、小グループ研修は4～5月、9/29～10/01、2～3月に実施 ・フィールドワークは6/15、6/16に実施 <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、転任・新任の方に限り参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止。代替として12月に学年別人権集会を経ての小グループ意見交流活動を実施。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策によるイベントや文化祭の中止のため、年度始めに1年生の人権サークル加入者はなかったが、3年生引退後秋の入会促進活動により、新たに2年生1名と1年生2名が参加し、黙食やマスク越し意見交流という悪条件下にもかかわらず、これまで以上に深い意見交流につなげた。 	
----------------------------	--	--	--

	<p>○生徒理解を深め、生徒の自己指導能力を高める指導を推進する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登校指導、着こなし指導等共通実践を年5回以上実施 ・保健講話またはメンタルヘルス講演会を各学年1回実施 ・支援を必要とする生徒に関する事例検討会を適宜実施 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題行動による特別指導件数を一層減少 <p>○学校情報を積極的に提供・発信し、地域の発展に貢献する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ報道機関を通じて情報発信(更新履歴件数)年90件以上 ・生徒主体の学校説明会(体験授業を含む)年2回開催 ・小中校との連携、地域イベントへの協力 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年後期選抜普通科・理数科合計入学志願倍率1.1倍以上 	<p>【活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度当初の4月には、重点的に対応し、いじめ強化月間の4月と11月には、生徒会役員とピンクシャツ運動のキャンペーンを行った。特に11月は、多数の部活動有志生徒が参加した。5回延べ13日の登校指導、着こなし指導、挨拶運動を行った。 ・1年生は本校SC、2年生はMCサポートセンターみっくみえ、3年生はユースメンタルサポートセンターよりそれぞれ講師を招き、講演会を実施した。 ・事例検討会にとどまらず、SC、SSA、SSWの他、児童相談所や医療機関さらには特別支援学校のセンター的機能を利用したケース会議を開催した。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度13件、令和2年度6件、令和3年度7件(12月末現在)この2年減少傾向。いじめの認知について、積極的に初期段階で対応し、件数に含まれている。 <p>【活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬休み前までにホームページの「上高ニュース」更新回数が約100回。その他の更新を含め年間200件に近づく予定。部活動では、TwitterやInstaguramによる発信が進んだ。 ・学校説明会を秋に午前・午後の2回構成で実施。 ・小中高との連携、地域イベントは未実施。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終倍率 普通科 0.90倍 理数科 2.75倍 学校計 1.05倍 	
<p>3 教職員が働き甲斐を実感する学校</p>	<p>○過重労働緩和・総勤務時間縮減を学校全体で進める。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時退校日を月1日設定し、定時退校できた職員の割合70%以上 ・放課後に開催され60分以内に終了する会議の割合90%以上 ・部活動休養日を週1日設定し活動した部活動の割合100% <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月45時間を超える時間外労働の延べ人数0人 ・年360時間を超える時間外労働の人数0人 	<p>【活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水曜日NO会議日の取組を継続し、月1回行事予定表により定時退校日を指定した57% ・67% ・100%達成 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月45時間越延べ48名 活動可能期間への集中、競技役員等に過重労働が集中した。該当職員全員に校長面談を実施し削減に取り組んだ。 ・年360時間越 部活動指導者7名 	

<ul style="list-style-type: none"> ・1人当たりの月平均時間外労働 20 時間以下 ・1人当たりの年休取得日数を昨年比 0.5 日増加(目標値 17.7 日) 	<ul style="list-style-type: none"> ・19.8 時間 ・13.9 日 	
--	---	--

改善課題

新型コロナウイルスという未知のものに対する不安を経験し、生徒と教職員が共に、新型コロナウイルスに関わるさまざまな人権課題を認識する状況であった。他の人権課題と同様、「自分事」として捉え、様々な状況に置かれている立場の人がいることを理解した発言・行動力の育成が求められている。生徒が個々に抱える悩みや不安を相談できる教職員であるかどうか、生徒わずかな変化に気づき寄り添っているか、生徒が安心してありのままの自分を出せる集団づくりを行えているか等、教職員が協力して日常の教育活動の各場面を点検することに取り組んで行く。

一層の生徒理解を深め、生徒の自己指導能力を高める指導を一層推進しながら新しい上野高校像と理数科・普通科教育の魅力を発信し、地域の発展に貢献する。

ひき続き教職員が働き甲斐を実感する学校づくりに取り組む。

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進学指導において国公立大学はもとより、関東方面の難関私立など関西・中京方面以外の幅広い選択肢を持てるような情報提供が必要である。 ・第一志望の実現を目指して、夏から実践演習が行える教科の増加に向けてカリキュラムマネジメントを行うこと。 ・コロナ禍における ICT の活用を一層推進する必要がある。 ・文武両道の伝統を引き継ぎ部活動では大きな成果を上げている。生徒が横のつながり強め、互いに夢を共有して励ましあう環境を作り出す教科と、伊賀・名張地域を超えて情報発信に取り組んで学校の活性化に取り組む必要がある。
----------------------------	--

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒・教職員ともに ICT 活用力が向上しており、オンラインによる外部との連携の成果と合わせて ICT 活用成果の共有を進め、これまでのアクティブラーニングの成果と合わせて学びに向かう主体性を向上させる教育課程の改善に取り組む。 ○予測可能な未来に対応する学力が身に付けられるよう、教科横断的な探究活動を推進して課題解決能力の向上を図り、外部に発信する。 ○理数科・普通科ともに生徒が「働くこと」の意義を理解し、多様な生き方に関する様々な情報を取捨選択・活用しながら主体的に判断できるキャリアプランニング能力を育成する。
<p>学校運営についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○SSH 校として、学校全体の取組とするために推進管理体制を考慮して事業推進する組織体制が評価されており、医師や最新の研究など大きな高い目標を持てるような経験を通して「国際舞台で活躍する科学技術人材の創出」を目指し、探究のプロセスを生かす授業の充実を推進する。